

歴史探訪

クラブ

其の188

History Inquiry Club



文化財課 ☎22-1720
(博物館) FAX 22-2028

木と人との関わり

本市では平成19年度に『たはらの巨木・名木100選』の冊子を作成しました。この冊子には、地域自慢の巨木・名木が写真、位置図、解説と共に収められています。内容を見ると、大きさや、古さというだけでなく、地域で親しまれているか、選定のポイントになっています。寺社や学校の木が多く選ばれたのもそのような理由でしょう。

過去にも紹介した江戸時代の地理書『村奉行手控』『たはら記』など

にも、名木が紹介されています。

本多広孝の田原城攻めの際(1564年)、加治砦から発された大筒の玉を防いだ中部小学校の裏手の田原城の土塁に生えていた千貫松、徳川家康が車を止めて観賞した車止めの桜(加治町)、田原城主戸田忠昌が褒めた殿松(南神戸町)、田原城主三宅康勝が新田の視察をした御見立松(浦町)などは名前の由来が書いてあります。

その他、名前がある木は相生松(加治町)、物見松(芦町)、蛇松(野田町)、水神大松・久神松(仁崎町)、児玉松(豊島町)、傾城松(神戸町)、左近松(東神戸町)、御槍立松・御継言松・御弓立松(高松町)、松地藏松(赤羽根町)があります。二俣ノ松(大久保町)は記録にも「同所山下道通りノ名木也」とあります。

また、『渥美町の伝説』にも、家康が荷物を掛けた中山町の「鬼松」(お荷松)、鏝よぎを掛けた山田町泉福寺の「鏝掛の松」が紹介されています。残念ながら、これらの名木はその後失われてしまい、伝説として残ることとなりました。

しかし、記録の名木は松ばかり

で、由来が示されている木は家康など偉人に関わるものです。松は神が降り、人々の繁栄の象徴など畏敬の対象ですし、木材や燃料をはじめとする有用な木です。そして何よりも身近な木として、名木の対象になりやすかったのでしょうか。

さて、大きな木といえば、古老に聞くと、必ず昭和34年(1954)の伊勢湾台風によってことごとく倒れ枯れてしまったといえます。もちろん地域に親しみを持った名前と呼ばれた名木も被害に遭いました。その中で現在残る巨木は、被害に遭わなかった数少ないものなのです。

白谷町の八柱神社のスタジイスタジイに関する聞き取りでは、「大きな洞あながトネルのようで、そこをくぐってよく遊んだものだ(現在は無い)、シイの実を木から揺り落とすのは高学年、拾うのは低学年、あの木はまるで竜のように見えるよ」など、次か



●昭和50年代に枯れた「ドウツン松」(中山町)かつてはこのような名木がたくさんありました



●八柱神社のスタジイ(白谷町)

ら次へと思い出話を聞くことができました。人々の記憶にはまだまだ「名木」が刻み込まれているんですね。

本の巻頭のあいさつに「人々の思い出が積み重ねられた地域を象徴する樹木の歴史」と書かれているとおり、巨木・名木は人が関わることによって生まれます。巨木・名木の存在は、その土地の自然と文化の共生の証です。

この本の改訂版が4月に発行される予定です。どうぞお楽しみに。

(増山)

たはらの自然めぐりⅡ
『たはらの巨木・名木100選』
【問い合わせ先】
街づくり推進課 ☎23,3524